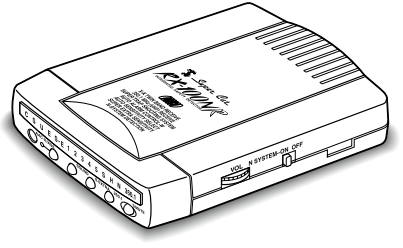
Super Cat
安全運転を支えるテクノロジー



このたびは、スーパーキャットのレーダー探知機をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本機は、取締りレーダー波の存在を前もってお知らせする受信機です。

12V/24V車対応

⚠ 注意

この取扱説明書をよくお読みのうえ、安全運転のよきパートナーとして正しくお使いください。
なお、お読みになられたあとも、いつでも見られる場所に大切に保管してください。

超高感度多機能レーダー探知機

RX-100NR
INTEGRATED SAFETY DETECTOR

取扱説明書

目次

はじめに	安全上のご注意	2
	主な特長	6
	ご使用にあたって	7
	各部の名称と働き	8
取り付けかた	本体を取り付ける	12
	電源について	20
使いかた	音量/警報音/受信感度を設定する	22
	AAC-Ⅳ/ASSシステムの使いかた	25
	ASS機能について	28
	iDSPについて	30
	• Nシステム検知について	33
	取締りレーダー波受信時の警報について	36
	350.1受信機能の使いかた	38
	便利な機能について	41
その他	取締りのミニ知識	42
	故障かな？と思ったら	44
	アフターサービスについて	47
	仕様	47

安全上のご注意

つづく

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。ここに記載された注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用するかたへの危害や損害を未然に防止するためのものです。安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。また、注意事項は危害や損害の大きさを明確にするために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ **警告**：この表示は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

⚠ **注意**：この表示は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

絵表示について

⚠ この記号は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。

⃠ この記号は、してはいけない「禁止」内容です。

❗ この記号は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠警告

水をつけたり、水をかけない。また、ぬれた手で操作しない…火災や感電、故障の原因となります。

穴やすき間にピンや針金などの金属を入れない…感電や故障の原因となります。

⚠ 警告

電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、加工しない。また、電源コードが傷んだら使用しない…感電やショートによる発火の原因となります。

シガーライターソケットやシガープラグの汚れはよくふく…接触不良を起こして火災の原因となります。

シガーライターソケットは単独で使う…タコ足配線や分岐して接続すると、異常加熱や発火の原因となります。

シガープラグは確実に差し込む…接触不良を起こして火災の原因となります。

表示された電源電圧以外では使用しない…火災や感電、故障の原因となります。また、ソケットの極性にご注意ください。本機はマイナスアース車専用です。

運転中は絶対に操作しない…わき見運転は重大事故の原因となります。また、設定は停車中に、パーキングブレーキを確実にかけた状態で行ってください。

穴やすき間にピンや針金などの金属を入れない…感電や故障の原因となります。

機器本体および付属品を改造しない…火災や感電、故障の原因となります。

安全上のご注意

⚠警告

取り付けは、運転や視界の妨げにならない場所、また、自動車の機能（ブレーキ、ハンドル等）の妨げにならない場所に取り付ける…誤った取り付けは、交通事故の原因となります。

助手席エアバックの近くに取り付けたり、配線をしない…万一のとき動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。また、電源コードが妨げとなり、エアバックが正常に動作しないことがあります。

煙が出ている、変な臭いがするなど、異常な状態のまま使用しない…発火の恐れがあります。すぐにシガープラグを抜いて、販売店に修理をご依頼ください。

万一、キャビネットを破損した場合は、すぐにシガープラグを抜く…そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。

警報したときに慌ててブレーキをかけたりしない…走行中に急ブレーキをかけたりすると大変危険です。

バッテリーに直接接続しない…火災や感電、故障の原因となります。シガープラグコードを使用せずに電源をとる場合は、別売のOP-4をご使用ください。

サービスマン以外の人は、絶対に機器本体および付属品を分解したり、修理しない…感電や故障の原因となります。内部の点検や調整、修理は販売店にご依頼ください。

⚠注意

取り付けは確実に行う…落ちたりして、ケガの原因となります。

車から離れるときは、電源が切れていることを確認する…シガーライターソケットに常時、電源が供給される車種があります。長時間ご使用にならないときはシガープラグを抜いてください。

シガープラグコードを抜くときは、電源コードを引っ張らない…コードに傷がついて、感電やショートによる発火の原因となります。必ずシガープラグを持って抜いてください。

お手入れの際は、シガープラグを抜く…感電の原因となります。

日頃から安全運転にお心がけください

このレーダー探知機は、取締りレーダー波の存在を前もってお知らせする受信機です。レーダー方式以外の赤外線や光電管式、ワイヤー式などのスピード測定装置には反応しません。また、電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車輌通過計測機などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。「いつも鳴るから」と安心せずに注意してください。

※探知距離は、走行環境、測定条件などにより変わることがあります。

主な特長

1 S-EXTRA/スーパーエクストラ感度
衛星技術を応用した探知距離2倍(当社比)の超高感度。
Wスーパーヘテロダイン…スイープオシレータ式超高精度受信方式。[特許 第1720227号]
X・Kツインバンド…Xバンド/Kバンドの2バンド対応。

2 iDSP※
統合的デジタル信号処理技術(iデジタル)により、超高精度識別を実現。
※integrated Digital Signal Processing Technologyの略です。
①ボイス識別
- Nシステム検知…「自動車ナンバー自動読み取り装置」(Nシステム)を検知すると、『Nシステムです』と取締り機とは区別して、男性のボイス(男声)でお知らせ。[特許出願中]
- 新Hシステム識別…『Hシステムです』と通常波と区別してボイス(女声)でお知らせ。
- ステルス識別…『ステルスです』と通常波と区別してボイス(女声)でお知らせ。

②GPS排除
カーナビのモレ電波を識別し、誤警報を排除。さらに、周波数ズレを自動補正。[特許 第3044004号]

3 アラーム機能
①ボイスアラーム…取締り機までの距離に応じて、『ご注意ください』『危険です』とテンポアップボイス(女声)で警報。
②メロディアラーム…♪「トルコマーチ」(モーツァルト)のメロディもテンポアップして警報。
③Wアラーム…音(ボイス/メロディ/電子音)&光(シグナルメーター)のダブルで警報。
④接近テンポアップシステム…取締り機に近づくに従い、電子音だけでなく、ボイスそしてメロディまでもがテンポアップ。
⑤ピクトディスプレイ…識別内容、感度、受信レベルなどをわかりやすく、面発光でディスプレイ。

4 350.1MHz取締無線受信
①会話受信…取締り現場無線の交信の内容が丸ごと聞ける。
②ボイスガイド…『チェックポイント。電波を受信しました。ご注意ください』とボイス(女声)でお知らせ。
③電子音アラーム…取締り現場無線の受信を電子音でお知らせ。

5 自動制御機能
①ASS※/最適感度選択…走行時間に応じて、最適の受信感度を自動的に選択。[特許 第3051676号]
※Auto Sensitivity Selectionの略です。
②AAC-Ⅳ※/不要警報カット…自動ドアなど、停車中のムダな警報を自動的にカット。
※Auto Alarm Control Ⅳの略です。
③フルオートディマー…車内の明るさを光センサーが感知し、自動的にライトダウン。
④オートクワイアット…アラームの鳴り始めから、30秒で自動的にボリュームダウン。

ご使用にあたって

使用上のご注意

■本機は、赤外線や光電管、ループコイル式スピード測定装置には反応しません。
■一部の車種に採用されている金属コーティングの断熱ガラスは、電波の透過率が低いため、探知距離が短くなることがあります。

動作温度範囲について

■本機は、−20˚C〜+85˚C(350.1MHz受信部は−10˚C〜+60˚C)まで正常な動作が保証されています。夏、冬とも安心してご使用ください。

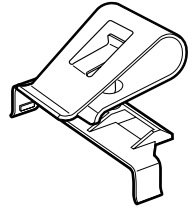
特定の相手に対して行われる無線通信を傍受し、その存在もしくは内容を漏らしたり窃用した場合は、電波法により罰せられます。

本機を使用中のスピード違反に関しては、一切の責任を負いかねます。日頃からの安全運転をお心がけください。

付属品

■ご使用前に付属品をお確かめください。

●ブラケット/サンバイザークリップ(1)



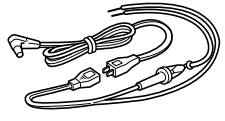
●サクションクリップ(1)

※お買い上げ時はセットされています。

- シガープラグコード(1)
- ダッシュボード用ブラケット(両面テープ付1)
- クッション(2)
- 吸着盤(2)
- コードクリップセット(1)
- 取扱説明書(1)
- 保証書(1)
- ご相談窓口一覧(1)

別売品のお知らせ

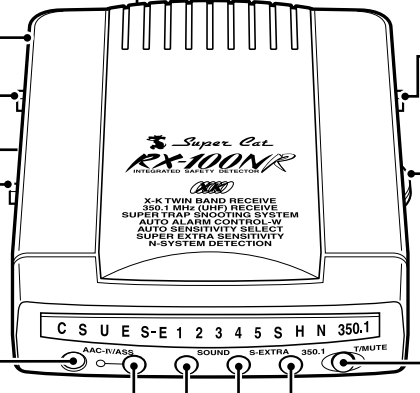
電源直結コードOP-4(約4m)
1,500円(税別)
シガーライターソケットを使わずに、アクセサリー系端子から直接電源をとることができます。



各部の名称と働き

つづく

本　体



Nシステムセンサー（前面）
Nシステムを検知します。

DCジャック［DC12/24V］
付属のシガープラグを接続します。（20ページ）

350.1モードスイッチ［COM V A -350.1］
350.1受信機能の動作モードを選べます。
（37ページ）

スピーカー（裏面）

受信感度セレクトスイッチ［E S C -SENS］
走行環境や条件に合わせてレーダー探知機の受信感度を選べます。（23ページ）

光センサー
車内の明るさを感知し、暗くなるとオートディマーが働きます。（39ページ）

AAC-IV/ASSボタン［AAC-IV/ASS］
AAC-IVシステムの設定/解除ができます。設定すると、自動的にASS機能が働きます。（25、26、27ページ）

アンテナ（前面）
取締りレーダー波を受信します。

Nシステムスイッチ［N SYSTEM-ON OFF］
Nシステム検知の設定/解除ができます。（33ページ）

ボリュームツマミ［VOL］
警報音の音量調節ができます。（22ページ）

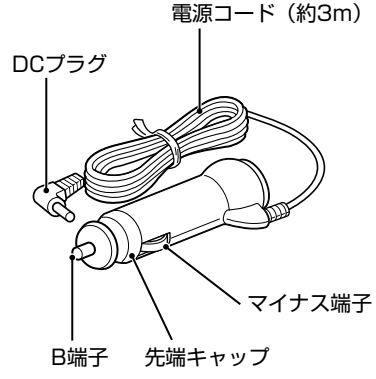
テスト&ミュートボタン［T/MUTE］
レーダー探知機の警報機能の確認や、ミュート機能を使うとき押します。（22、23、39ページ）

350.1ボタン［350.1］
取締り現場連絡無線（350.1MHz）受信の設定/解除ができます。（36ページ）

S-EXTRA（スーパーエクストラ）ボタン［S-EXTRA］
S-EXTRAモードの設定/解除ができます。（24ページ）
設定すると受信感度セレクトスイッチの位置やASS機能の状態にかかわらず超高感度モードになります。

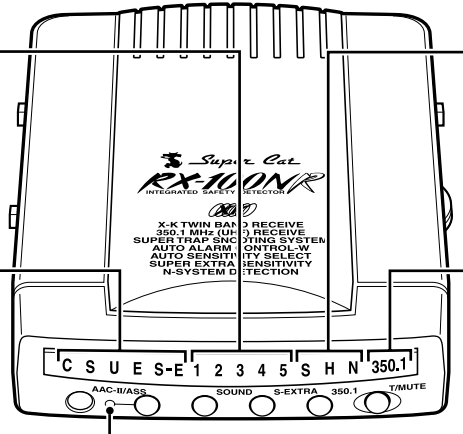
警報音セレクトボタン［SOUND］
取締りレーダー波受信時の警報音が選べます。（23ページ）

シガープラグコード



各部の名称と働き

表 示 部



シグナルメーター［1～5］
受信している取締りレーダー波の強さに応じて、点灯数が増えます。右端に達する（1～5が点灯）とすべてが点滅します。（34ページ）

感度ランプ［C S U E S-E］
受信感度の状態を表示します。（23、24、29ページ）

AAC-IV/ASSランプ［AAC-IV/ASS］
電源が入ると点灯し、レーダー探知機の警報の状態をランプの色で表示します。（25、26、27ページ）

識別ランプ［S H N］
取締りレーダー波を受信、またはNシステムを検知すると識別して表示します。（33、34ページ）

350.1ランプ［350.1］
350.1受信機能がONのとき緑色に点灯します。
また350.1MHzの電波を受信したときは赤色の点滅になります。（36、37、38ページ）

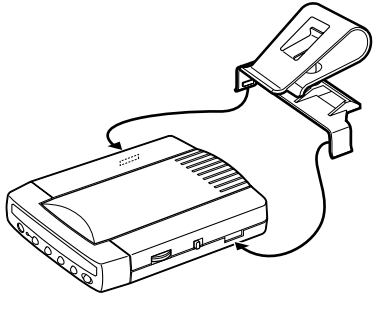
本体を取り付ける

アンテナの前にカーラジオのガラスアンテナや金属、ゴムなどの障害物がこないように取り付けます。

つづく

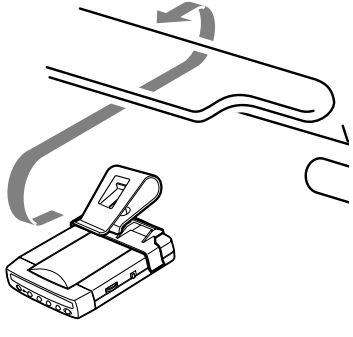
サンバイザーに取り付ける

1 付属のブラケットに本体を取り付ける



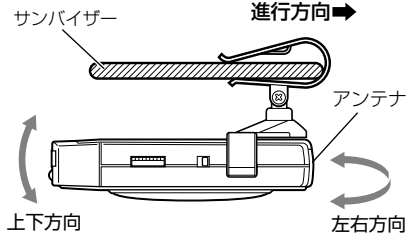
- お買い上げ時に、あらかじめブラケットとサンバイザークリップが取り付けられています。
- 本体側面のミゾにブラケットのツメをしっかりと引っ掛けてください。

2 助手席側のサンバイザーに挟み込む



3 取り付け角度を調節する

道路に対して水平に、またアンテナが進行方向を向くようにします。



⚠警告

運転や視界の妨げにならない場所、また自動車の機能(ブレーキ、ハンドルなど)の妨げにならない場所に取り付けてください。誤った取り付けは、交通事故の原因となります。

⚠注意

取り付けは確実に行ってください。落ちたりして、ケガの原因となります。

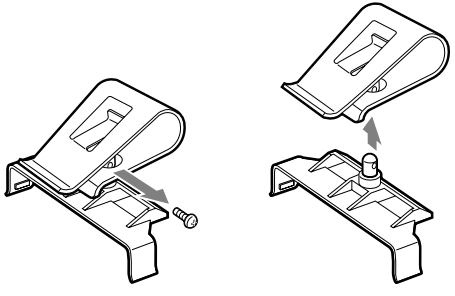
本体を取り付ける

アンテナの前にカーラジオのガラスアンテナや金属、ゴムなどの障害物がこないように取り付けます。

つづく

フロントガラスに取り付ける

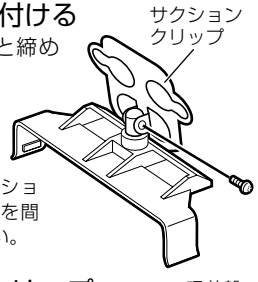
1 付属のサンバイザークリップ付ブラケットからサンバイザークリップを取り外す



※ネジの大きさに合ったドライバーを使用してください。ネジのつぶれの原因となります。

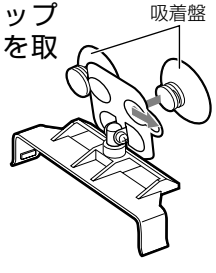
2 ブラケットに付属のサクションクリップを取り付ける

ネジはしっかりと締めます。



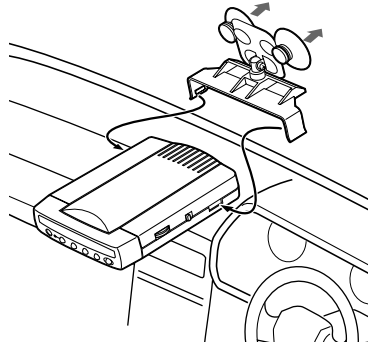
ブラケットとサクションクリップの向きを間違えないでください。

3 サクションクリップに付属の吸着盤を取り付ける



4 ブラケットに本体を取り付け、フロントガラスに貼り付ける

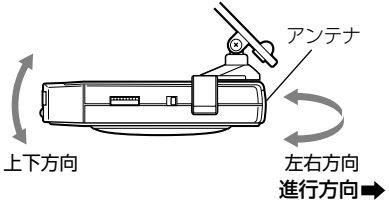
吸着盤(吸着面)に水などをつけて、フロントガラスの中央下部に貼り付けます。



本体側面のミゾにブラケットのツメをしっかりと引っ掛けてください。

5 取り付け角度を調節する

道路に対して水平に、またアンテナが進行方向を向くようにします。



使用中、本体が傾くような場合は、ネジの締め付けを行ってください。

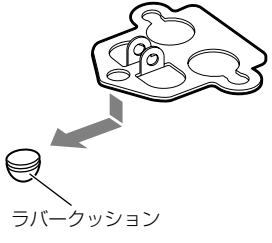
本体を取り付ける

アンテナの前にカーラジオのガラスアンテナや金属、ゴムなどの障害物がこないように取り付けます。

つづく

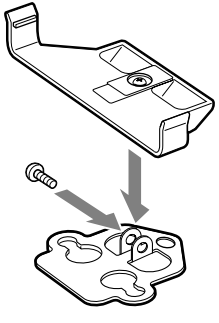
ダッシュボードに取り付ける

1 サクションクリップのラバークッションを取り外す



2 付属のブラケットに付属のサクションクリップを取り付ける

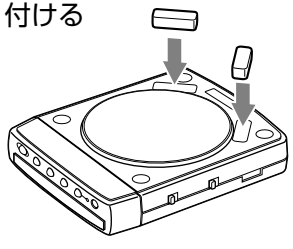
ネジはしっかりと締めます。



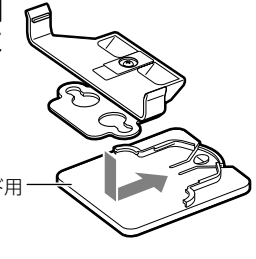
ブラケットとサクションクリップの向きを間違えないでください。

※ネジの大きさに合ったドライバーを使用してください。ネジのつぶれの原因となります。

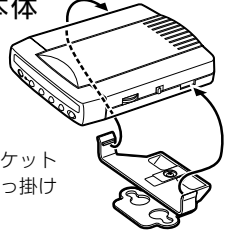
3 付属のクッションを本体に貼り付ける



4 サクションクリップを付属のダッシュボード用ブラケットに取り付ける

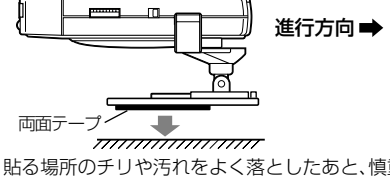


5 ブラケットに本体を取り付ける



本体側面のミゾにブラケットのツメをしっかりと引っ掛けてください。

6 ダッシュボード用ブラケットの両面テープで貼り付ける

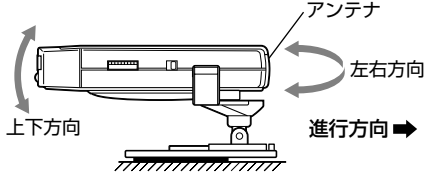


- 貼る場所のチリや汚れをよく落としたあと、慎重に行ってください。

ダッシュボードに取り付ける（つづき）

7 取り付け角度を調節する

道路に対して水平に、またアンテナが進行方向を向くようにします。



使用中、本体が傾くような場合は、ネジの締め付けを行ってください。

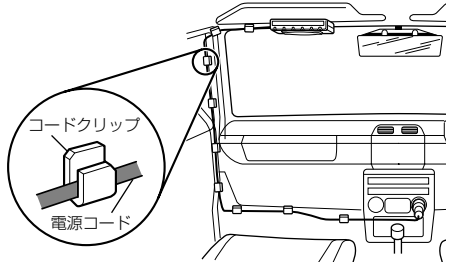
※ネジの大きさに合ったドライバーを使用してください。ネジのつぶれの原因となります。

⚠警告

- 本体側面のミゾにブラケットのツメをしっかりと引っかけてください。落ちたりして、ケガの原因となります。また、誤った取り付け状態のまま使用すると、ブラケットが変形する可能性があります。
- 運転や視界の妨げにならない場所、また自動車の機能（ブレーキ、ハンドルなど）の妨げにならない場所に取り付けてください。誤った取り付けは、交通事故の原因となります。
- 助手席エアバックの妨げとなる場所に配線しないでください。シガープラグコードが妨げとなり、エアバックが正常に動作しなかったり、動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。

コードクリップの使いかた

付属のコードクリップセットで、シガープラグコードがきれいに配線できます。
コードクリップを両面テープで貼り付けます。



- 布などは避け、なるべく硬く、なめらかな場所を選び、接着面に触れないように貼り付けます。
- 貼る場所のチリや汚れをよく落としたあと、慎重に行ってください。
- シガープラグコードが350.1受信機能のアンテナになっています。別売のOP-4を使用する場合は、コード（DCプラグ側 20cm以上）を表（車内）に出してください。

⚠警告

- 助手席エアバックの妨げとなる場所に配線しないでください。シガープラグコードが妨げとなり、エアバッグが正常に動作しなかったり、動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。
- 運転や視界の妨げにならない場所、また自動車の機能（ブレーキ、ハンドルなど）の妨げにならない場所に取り付け・配線を行ってください。誤った取り付けは、交通事故の原因となります。

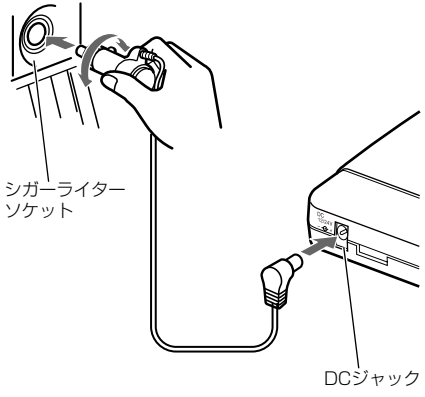
⚠注意

- 取り付けは確実に行ってください。落ちたりして、ケガの原因となります。

電源について

付属のシガープラグコードを、DCジャックと車のシガーライターソケットに差し込む

シガープラグは、2〜3回左右にひねりながら差し込みます。



⚠警告

ぬれた手でシガープラグを抜き差ししないでください。火災や感電、故障の原因となります。

シガープラグコードを傷つけたり、無理に曲げたり、加工しないでください。また、傷んだシガープラグコードを使用しないでください。感電やショートによる発火の原因となります。

シガーライターソケットやシガープラグの汚れはよくふいて確実に差し込んでください。ホコリが付いていたり、不完全な接続をすると、接触不良を起こして火災の原因となります。

シガーライターソケットは単独で使用してください。タコ足や分岐して接続すると異常過熱や発火の原因となります。

表示された電源電圧以外では使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。

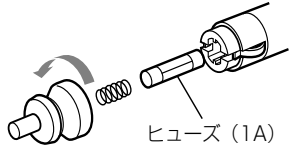
万一キャビネットを破損した場合は、すぐにシガープラグを抜いてください。そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因となります。

⚠注意

シガープラグコードを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードに傷がついて感電やショートによる発火の原因となります。

お手入れの際には、シガープラグを抜いてください。感電の原因となります。

- シガープラグコードは、必ず付属のものをご使用ください。
- シガープラグ内部のヒューズが切れた場合は、新しいヒューズ（1A）と交換してください。
- 一部の車種においては、シガープラグの形状が合わないことがあります。その場合は、別売のOP-4を使用してください。（7ページ参照）
- 本機をバッテリーなどと直接接続すると故障の原因となりますので、絶対におやめください。

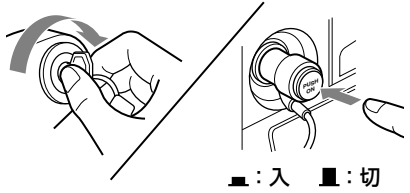


音量/警報音/受信感度を設定する

つづく

1 電源を入れる

車のエンジンを始動し、シガープラグの電源スイッチを押します。



■：入　■：切

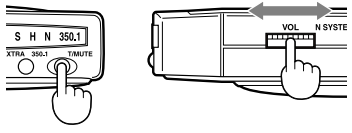
ターン・オン・ビープ(ピロッピロッまたはピロッピロッ…ピピピピという音、39ページ参照)が鳴り、表示部のAAC-Ⅳ/ASSランプが点灯します。

⚠警告

運転中は絶対に操作しないでください。わき見運転は重大事故の原因となります。本機の設定・操作をするときは、停車中にパーキングブレーキをかけた状態で行ってください。

2 音量を調節する

テスト&ミュートボタンを押しながら、ボリュームツマミを回します。

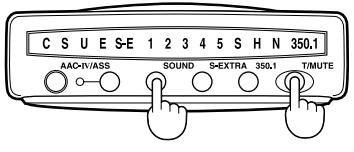


押している間はテストモードとなり、警報音が鳴り続けます。
テスト&ミュートボタンを離してから、1秒以内に、再び押すと『ステルスです』『Hシステムです』『Nシステムです』…と聞こえます。(Nシステム検知がONのとき)
さらに押すと『ピピピピ』『チェックポイント』『電波を受信しました』『ご注意ください』…と聞こえます。(350.1受信機能がONで、ボイスモードのとき)
さらに押すと警報音(電子音またはメロディまたはボイス)に戻ります。

- テスト&ミュートボタンを押す前から警報機能が働く場合は、近くで発信されている、取締りレーダー波と同じ電波を受信しているためです。この状態でボタンを押すと、ミュート機能が働き、警報音が止まります。(39ページ参照)

3 警報音を選ぶ

テスト&ミュートボタンを押しながら、警報音セレクトボタンで切り換えます。



押すたびに切り換わります。

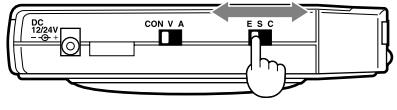
電子音 → メロディ → ボイス

お好みに合わせて選びます。

- メロディアラームの曲名：♪トルコマーチ(モーツァルト)
  ボイスアラームの内容：『ピンポンピンポン』『ご注意ください』『危険です』
- 選択した警報音はテスト&ミュートボタンを押すことで確認できます。

4 受信感度を選ぶ

受信感度セレクトスイッチで切り換えます。(マニュアルモード)



走行環境や条件に合わせて選びます。

	受信感度	感度ランプの表示
ESC-SENS	エクストラ感度モード	E
ESC-SENS	スーパー感度モード	S
ESC-SENS	カットダウンモード	C

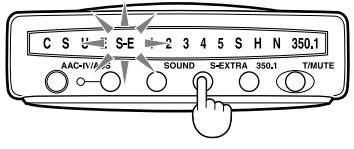
- 選択した感度モードは感度ランプで表示されます。

※S-EXTRA感度モードを設定しているときは、受信感度セレクトスイッチは無効となり[S]-[E]の表示のままとなります。(24ページ参照)

S-EXTRA(スーパーエクストラ)感度について

S-EXTRAモードを設定すると、受信感度セレクトスイッチの位置にかかわらず、超高感度モードとなります。

■S-EXTRA感度モードを設定する



ボタンを押すたびに切り換わります。

受信感度について

受信感度が高いほど、遠くの電波を受信できますが、取締りレーダー波と同じ他の電波も受信してしまいます。走行環境や条件に合わせて、受信感度をお選びください。また、受信感度が高いほど、新Hシステムなどの受信には有効となります。

■マニュアルモード時の受信感度の切り換え

	受信感度	走行環境や条件
高い↑低い	スーパーエクストラ感度モード	高速道路
	エクストラ感度モード	郊外や高速道路
	スーパー感度モード	市街地や郊外
	カットダウンモード	市街地

- AAC-Ⅳ/ASS機能を設定すると、受信感度セレクトスイッチの位置にかかわらずASS機能が働き、走行時間の経過により、受信感度がカットダウンからスーパー感度、ウルトラ感度、エクストラ感度へと変化します。※(28ページ参照)

※スーパーエクストラ感度モードに設定したときは、常に超高感度モードとなり変化しません。

AAC-Ⅳ/ASSシステムの使いかた

つづく

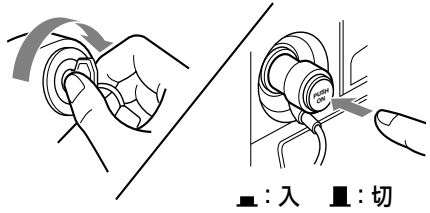
AAC-Ⅳのしくみと働き

オルタネータ(発電機)から出ているパルスノイズの周波数変化でエンジンの回転数を算出し、設定したエンジンの回転数以下で走行しているときや、停車中の警報音をキャンセルします。

- ご使用になる車種によっては、パルスノイズの情報が少なく、AAC-Ⅳが正常に働かないことがあります。このようなときは、AAC-Ⅳ/ASSを解除してご使用ください。
- 通常、エアコンをお使いの場合は、エアコンを入れた状態で設定してください。
- 車のランプ類やワイパーなどを使ったときに、エンジンの回転数が変化する場合は、それらを使用した状態で設定し直してください。
- A/T車でAAC-Ⅳ/ASSを使用する場合は、下り坂などでアクセルを戻すと、スピードが出ていてもエンジンの回転数が設定値以下となって、警報音が鳴らないことがあります。
- 一部のA/T車では、アイドリング状態で、シフトがドライブ(D)のときは正常に動作するのに、ニュートラル(N)にするとAAC-Ⅳ/ASSランプが緑色に点灯することがあります。このようなときは、エンジンの回転数を少し高めに設定してください。

1 電源を入れる

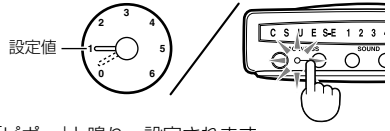
車のエンジンを始動し、シガープラグの電源スイッチを押します。



AAC-Ⅳ/ASSランプが赤色か緑色に点灯し、ターン・オン・ビープ(39ページ参照)が鳴ります。
AAC-Ⅳ/ASSランプがオレンジ色に点灯しているときはAAC-Ⅳ/ASSボタンを押し続けます。
「ポポッ ピー」と鳴り赤色か緑色の点灯に変わります。

2 AAC-Ⅳが働くエンジンの回転数を設定する

アクセルペダルを軽く踏み、希望の回転数でAAC-Ⅳ/ASSボタンを押します。（アイドリング状態より200～300回転高いところを目安に設定します）



「ピポッ」と鳴り、設定されます。

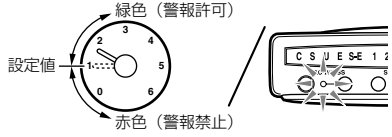
※AAC-Ⅳ/ASSランプがオレンジ色のときは設定できません。エラー音「ポポ」が鳴ります。この場合はAAC-Ⅳ/ASSボタンを押し続け、AAC-Ⅳが働く状態（AAC-Ⅳ/ASSランプが赤色か緑色に点灯）してから、回転数の設定を行ってください。

ご注意

- 回転数の設定は、法定速度以下でAAC-Ⅳ/ASSランプが緑色の点灯になるようにしてください。AAC-Ⅳ/ASSの働きによりAAC-Ⅳ/ASSランプが赤色で点灯中は取締りレーダー波を受信しても警報音を出しません。

3 動作を確認する

設定した回転数以上にしてしばらくすると、AAC-Ⅳ/ASSランプが赤色から緑色の点灯に変わります。



- 警報許可⇄警報禁止は、数秒後に切り換わります。

⚠警告

運転中は絶対に操作しないでください。わき見運転は重大事故の原因となります。本機の設定・操作をするときは、停車中にパーキングブレーキをかけた状態で行ってください。

設定値を変更するには

AAC-Ⅳ/ASSランプが赤色か緑色に点灯中に、希望の回転数にして、AAC-Ⅳ/ASSボタンを押します。

「ピポッ」と鳴り、設定が変更されます。

解除するには

AAC-Ⅳ/ASSランプがオレンジ色に点灯するまで、AAC-Ⅳ/ASSボタンを押し続けます。

AAC-Ⅳ/ASSランプが赤色または緑色に点灯中に、AAC-Ⅳ/ASSボタンを押し続けると、「ピポッ ピー」と鳴り、AAC-Ⅳ/ASSが解除されます。

点灯色	AAC-Ⅳ/ASS	レーダー波受信時の警報音
赤色	動作中	鳴らない（警報禁止状態）
緑色		鳴る（警報許可状態）
オレンジ色	解除	鳴る

※取締りレーダー波を受信しているときは、警報禁止状態でも、シグナルメーターは動作します。

AAC-Ⅳのインテリジェント機能について

AAC-Ⅳでは、マニュアル操作による設定値（26ページ）の他に、約3000～4000回転の間に仮想の設定値があらかじめ設定されています。それにより、車の走行状態を総合的に監視・制御します。

■インテリジェント機能について

- 停車状態から発進したときの、警報を許可（AAC-Ⅳ/ASSランプが緑色に点灯）するまでの時間を適正化する。
- 急加速時の警報を許可（AAC-Ⅳ/ASSランプが緑色に点灯）するまでの時間を適正化する。

※仮想の設定値は、パルスノイズの周波数変化を利用しているため、ご使用になる車種により異なります。また車種によっては、仮想の設定値を認識できないことがあります。その場合は、必ず、マニュアル操作による設定を行ってください。

ASS機能について

AAC-Ⅳ/ASSが働いているときには、設定したエンジンの回転数以上での走行時間やインテリジェント機能から、走行状況に応じた最適な受信感度を自動的に選択するASS(Auto Sensitivity Selection)/最適感度選択機能を使うことができます。

※ スーパーエクストラ感度モードに設定しているときを除く

[特許 第3051676号]

■受信感度の変化(S-EXTRA解除中)

ASS機能 (AAC-Ⅳ/ASS動作中)	カットダウンモード → スーパー感度モード → ウルトラ感度モード → エクストラ感度モード 走行状況に応じて自動的に変化します。
マニュアルモード (AAC-Ⅳ/ASS解除)	カットダウンモード ⇔ スーパー感度モード ⇔ エクストラ感度モード 受信感度セレクトスイッチで切り換えます。

- ASS機能が使えるのは、スーパーエクストラ感度モードを解除しているときで、AAC-Ⅳ/ASS動作時だけです。AAC-Ⅳ/ASSを解除すると、ASS機能を使うことはできません。
- AAC-Ⅳ/ASS動作中は、マニュアルモードで選んだ受信感度は、無効となります。
- ASS機能により、ウルトラ感度からエクストラ感度へ自動的に変化するとき、『ピピッ』という確認音が鳴ります。

※ スーパーエクストラ感度モードに設定しているときはASS機能やマニュアルモードで選んだ受信感度の設定位置にかかわらず、スーパーエクストラ感度になります。(AAC-Ⅳ/ASS動作中のAAC-Ⅳ機能は働きます)

感度ランプの表示について

感度ランプの点灯表示で現在の受信感度を示します。

感度ランプの点灯表示	受信感度	走行時間
E(緑色)	エクストラ感度モード	それ以降
U(黄色)	ウルトラ感度モード	警報許可から1分～約2分間
S(オレンジ色)	スーパー感度モード	警報許可から20秒～約1分間
C(赤色)	カットダウンモード	警報許可から20秒間

- 仮想の設定値をオーバーして走行する急加速状態を検出すると、規定の走行時間経過前でもエクストラ感度モードになります。
- AAC-Ⅳにより警報禁止状態になると、カットダウンモードに戻ります。

※ スーパーエクストラ感度モードに設定しているときはS·E(青色)で表示されます。

iDSPについて

本機はiDSP/統合的デジタル信号処理技術(integrated Digital Signal Processing Technology)により、ステルス型取締り機の「一瞬で強い電波」や、新Hシステムの「種類の異なる電波」に対しては、ただ単に警報するだけでなく、通常波と区別して『ステルスです』または『Hシステムです』とボイス(女声)でお知らせします。**[ステルス識別]/[新Hシステム識別]**

さらに「自動車ナンバー自動読み取り装置」(Nシステム)を、取締り機とは区別して検知することに業界で初めて成功し、なおかつ、聞き間違いの無いように『Nシステムです』と男性のボイス(男声)でお知らせします。**[Nシステム検知:特許出願中]]**

またカーナビからのGPSのモレ電波など妨害電波は、的確に識別し、誤警報を排除しています。さらに、温度変化などによる周波数ズレを自動補正しています。

[GPS排除:特許 第3044004号]

※ iDSPを解除することはできません。

※ iDSPはステルス型の取締り機に対して完全対応というわけではありません。また、取締りには電波を使用しない光電管式などもあり、先頭を走行する際はくれぐれもご注意ください。

ボイス識別

ステルス識別について

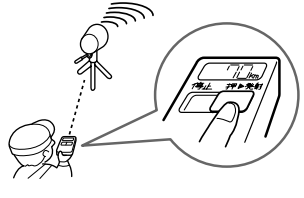
ステルス型取締り機は他の取締り機と同じ電波を使用していますが、事前に探知(受信)されないようにするため、待機中は電波を発射せず、必要なときに短時間強い電波を発射して速度の測定ができる狙い撃ちの取締り機です。従来機では、先頭を走行せずに2番手以降で走行していても、一瞬しか警報されません。

＜ステルス波を受信したとき＞

●専用のボイス（女声）でお知らせします。

受信	ピロピロ…（約2秒間） 『ステルスです ステルスです』

5秒以上受信が続くと、警報音セレクトスイッチで選んでいる通常の警報音に変わって警報します。



•受信しているレーダー波を識別して表示します。(34ページ)

つづく

ボイス識別

新Hシステム識別について

新Hシステムは電波を用いる自動速度取締り機（オービス）の一種ですが、他のオービスとは種類の異なる電波（周波数は同一）を使用しているため、従来機では探知（受信）しにくくなります。ただし、このシステムでは証拠の記録をする前に、電光掲示板で「速度オーバー」や「速度超過」などの警告がありますので、これらの警告を見かけたら注意してください。

＜新Hシステム波を受信したとき＞

●はじめは選んでいる通常の警報音（電子音、メロディ、ボイス）が鳴りますが、識別すると専用のボイス（女声）でお知らせします。。

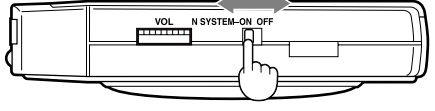
受信	通常の警報音 （電子音、メロディ、ボイス）
識別	ピロピロ 『Hシステムです』 ピロピロ 『Hシステムです』…… （受信している間、繰り返し警報します。）

•受信しているレーダー波を識別して表示します。（36ページ）

Nシステム検知について

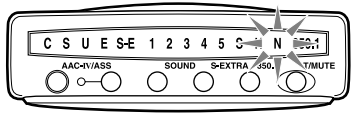
「自動車ナンバー自動読み取り装置」通称『Nシステム』は新Hシステムなどに似ていますが、レーダー波を使用した取締り機ではないため、従来機では通過しても何も反応しませんでした。そのため、「新型の取締り機ではないか？」といった疑問や不安を持ちながら運転していた人も多かったようです。
本機は、このNシステムが発している特殊な信号を、識別および検知し、さらに、スピード違反の取締りとは区別して、『Nシステムです』と男性のボイス（男声）でお知らせします。**[Nシステム検知：特許出願中]**

お買い上げ時には、N システムスイッチは ON の状態になっています。



＜Nシステムを検知すると＞

●『Nシステムです。Nシステムです』とボイス（男声）でお知らせし、識別ランプ『N』が点灯します。

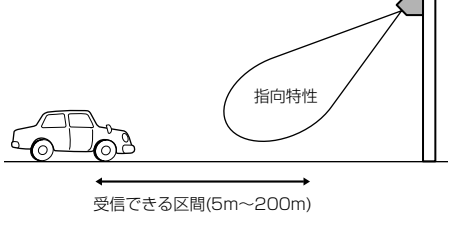


- 識別ランプ『N』は、受信中点灯し、受信を終了してから、約5秒後に消灯します。
- ボイス識別後、1分以内にもう1度Nシステムを検知しても、識別ランプ『N』は点灯しますが、ボイス（男声）でのお知らせはしません。
- ボイス識別中に、取締りレーダー波を受信すると、取締りの警報音が優先されます。

ボイス識別

Nシステムについて(つづき)

●Nシステムは取締り機ではなく、その名のとおり「自動車ナンバー自動読み取り装置」であり、その信号の指向角が鋭いため、信号を受信できる区間が５m ～200mと短くなります。
そのため、走行中にNシステムを検知しても、ボイス(男声)のお知らせが、直前または通り過ぎてからのように感じる場合もあります。



●Nシステムは常時稼動しているとは限りません。稼動していない状態では信号を受信できませんので、Nシステムの検知はできません。

●Nシステムが発しているものと同種の信号を使用している次の機器については、誤検知する場合があります。
- オービスのカメラ
- 高速道路入り口のナンバー読み取り装置
- 駐車場入り口のナンバー読み取り装置
- Tシステム(旅行時間予告システム)

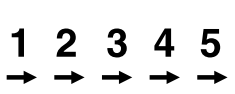
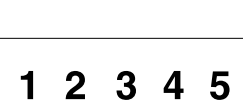
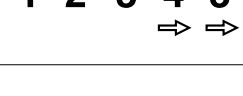
●次のようなとき、ごくまれに誤検知する場合があります。
- 液晶カメラやカーナビの画面に、本機を直接向けたとき
- 朝日または夕日(地平線または水平線に近い状態)に向かって走行しているとき
- バイクなどのイグニッションノイズ

GPS排除について

カーナビゲーションの中には、取締りレーダー波と同一周波数帯の電波を漏洩しているものがあります。従来機では、これが原因で警報が鳴りっぱなしになることがありましたが、この電波を安易に排除すると、肝心の取締りレーダー波に反応しないという、相反する問題がありました。
本機では、取締りレーダー波にはしっかり反応するよう、取締りレーダー波や自動ドアの電波とのわずかな違いを的確に識別することにより、GPSの漏洩電波のみを自動排除し、誤警報を防止しています。**(自動識別＆排除設定機能)**
さらに、自動設定後も、一定の間隔で排除設定の内容および温度変化などによる周波数変動の状態を常にチェックし、変化があれば自動的に補正し、誤警報を排除しています。
(自動補正機能) [特許 第3044004号]

※カーナビゲーションからの影響を排除している場合、受信している電波の識別判定がしにくく、新Hシステムやステルス波に対しても通常の警報音となる場合があります。
※自動ドアなど、常に電波の出ている場所でエンジンを始動すると、GPSを排除できない場合があります。このようなときは電波の出ていない場所に移動して、再度、本機の電源スイッチを入れ直してください。

取締りレーダー波受信時の警報について

取締り機(電波の種類)	シグナルメーター	警報音	識別ランプ
通常の取締り機 (常時発射されている連続波)	左から右に点灯数が増えます。 	選択した警報音(電子音、メロディ、ボイス)が鳴ります。電子音は断続音から連続音に変化し、ボイスとメロディはテンポが早くなります。	
ステルス型取締り機 (必要なときのみ、短時間発射される狙い撃ち的な連続波)	いきなり4つ以上点灯します。 	専用のボイス(女声)でお知らせします。 『ステルスです…』	S
新H システム＜新型オービス＞ (常時発射されている、種類の異なる電波)	段階的に点灯数が増え、3つ以上で新Hシステムを識別します。 	選択した警報音で鳴りはじめ、新Hシステムを識別すると専用のボイス(女声)でお知らせします。 『Hシステムです…』	H

⚠警告

警報音が鳴ったときに、あわててブレーキをかけないでください。急ブレーキは重大事故の原因となります。

接近テンポアップシステム

取締り機に近づくにしたがい、選択した警報音がテンポアップします。電子音だけでなく、メロディとボイスもテンポアップします。
※350.1アラーム、ボイス識別は除く。

Wアラーム方式

音(電子音、メロディ、ボイス)と光(シグナルメーター)のダブルで警報します。

- シグナルメーターの点灯が右端に達すると、すべてが点滅します。
- メロディアラーム/ボイスアラームを選んでいるときでも、ステルス型取締り機や新Hシステムの電波を受信すると専用のボイス(女声)でお知らせします。
- AAC-Ⅳの働きにより警報禁止状態のときでも、ステルス波を受信したときは専用のボイス(女声)でお知らせします。
- AAC-Ⅳの働きによる警報禁止状態のとき、警報音は鳴りませんが、選択している感度によっては、シグナルメーターの1～2だけが点灯する場合があります。
- ボイス識別は、ミュート機能により、一時的に消すこともできます。
- 通常の電波を受信した場合でも、周囲の状況などにより、ボイス(女声)でお知らせすることがあります。

350.1受信機能の使いかた

つづく

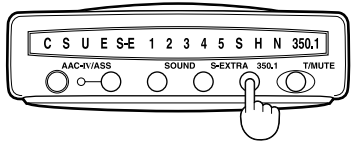
スピード違反の取締りや、シートベルト着用義務違反の取締り現場では、350.1MHzの電波を用いた無線で連絡が行われることがあります。
350.1受信機能は、このような取締りに威力を発揮します。設定すると、この連絡用の電波を受信したとき、350.1ランプが点滅し、その交信内容を聞くことや、警報としてアラームを鳴らすことができます。(取締り現場での連絡方法には、350.1MHzの電波を用いた無線の他に、有線方式もあります)

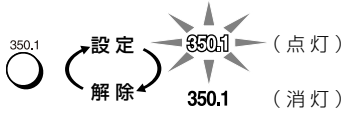
※ シガープラグコードが350.1受信機能のアンテナになっています。別売のOP-4を使用する場合は、コード(DCプラグ側 20cm以上)を表(車内)に出してください。

連絡のための無線交信は数秒で終わることが多いため、コミュニケーションモードで受信しても交信内容を聞き取ることは難しくなります。通常はアラームモードまたは、ボイス(女声)モードに設定されることをお勧めします。

1 設定する

350.1ボタンを押します。

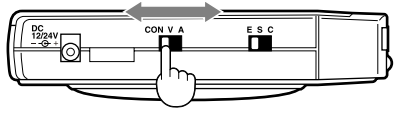




- 350.1ボタンを押すたびに、設定/解除が切り換わります。
- 設定すると、350.1ランプ(緑色)が点灯します。

2 動作モードを選ぶ

350.1モードスイッチで切り換えます。



アラームモード
電子音アラームが鳴ります。

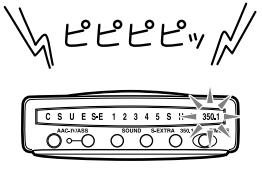
ボイス(女声)モード
ボイス(女声)でお知らせします。

コミュニケーション(会話)モード
交信内容が聞けます。

350.1MHzの電波を受信すると

<アラームモードのとき>

● 350.1ランプが赤色で点滅し、電子音アラームが鳴ります。



- 350.1MHzの電波を一瞬でも受信すると、アラームが約5秒間鳴ります。
- アラームはミュート機能で消すことができます。また約15秒間以上受信が続くと、自動的にミュート機能が働きます。
- アラームが鳴ったあと、1分以内にもう1度350.1MHzの電波を受信してもアラームは鳴りません。
- アラームが鳴っているときに取締りレーダー波を受信すると、取締りレーダー波受信時の警報音が優先されます。

350.1受信機能の使いかた

350.1MHzの電波を受信すると(つづき)

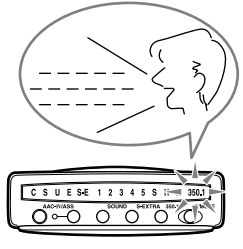
<ボイス(女声)モードのとき>

● 350.1ランプが赤色で点滅し、ボイス(女声)でお知らせします。

- 350.1MHzの電波を一瞬でも受信すると、アラームが1フレーズ鳴ります。また、警報中に再度電波を受信すると、もう1度、1フレーズの警報をします。
- アラームはミュート機能で消すことができます。受信が続いたときは、2フレーズの警報後、自動的にミュート機能が働きます。
- アラームが鳴ったあと、1分以内にもう1度350.1MHzの電波を受信してもアラームは鳴りません。
- アラームが鳴っているときに取締りレーダー波を受信すると、取締りレーダー波の警報音が優先されます。

<コミュニケーション(会話)モードのとき>

●350.1ランプが赤色で点滅し、交信内容が聞けます。

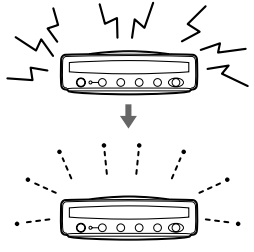


- 350.1MHzの電波を受信しているときに取締りレーダー波を受信すると、両方の音が重なって聞こえます。
- 交信は数秒間で終わることが多いため、交信内容を完全に聞き取ることは難しくなります。。

便利な機能について

ミュート機能

警報中にテスト&ミュートボタンを押すと、受信中の電波がなくなるまで、警報音を一時的に消すことができます。
取締りレーダー波の発信源が確認できたときに使います。



ターン・オン・ビープ

電源を入れたとき、確認音(22ページ参照)が鳴り、電源が入ったことをお知らせします。
また350.1受信機能が設定されているときはピロッピロッの後に350.1アラーム(ピピピピ)も鳴ります。

オートクワイアット機能

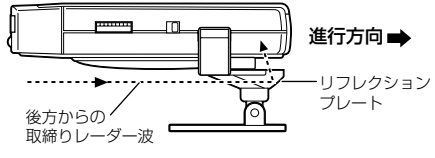
警報音が30秒間以上続くと、自動的に音量が小さくなり、シグナルメーターなどのランプ類も暗くなります。

フルオートディマー機能

車内の明るさを光センサーが感知し、暗くなると自動的に各ランプ類が減光し、夜間などでの眩しさを抑えます。

後方対応

リフレクションプレートにより、後方からの取締りレーダー波をより確実に受信することができます。



取締りのミニ知識

本機と、取締りの方法や種類をよくつかんで、上手にご使用ください。制限速度を守り、安全運転を心がけることが大切です。

スピード違反の取締り方法 大きく分けて3つの方法があります。

●追走して測定する方法

追尾方式

指針を固定できるスピードメーターを搭載している白バイやパトカーで、対象の車を追走して速度を測ります。

●距離と時間で算出する方法

光電管式、ループコイル式

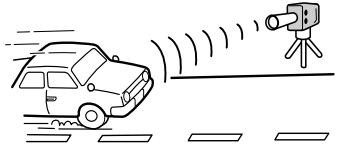
一定区間を通過するのにかかる時間から速度を算出します。

測定区間の始めと終わりに設置するセンサーには、赤外線や埋め込みの磁気スイッチなどが使われています。

●電波を使って算出する方法

レーダー式

電波を対象の車に向けて発射し、その反射波の周波数変化（ドップラー効果）で速度を算出します。



現在、スピード違反の取締りには、この方法が多く採用されています。この方法は、歴史も古く、種類、台数が多いことから、今後も取締りの主流となると思われます。

レーダー式取締り機について

取締りレーダー波を発射するときの角度や装置の種類によって性質が異なります。

●定置式

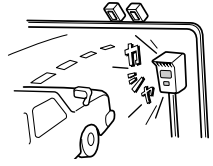
人が測定装置を道路際に設置して行います。

取締りレーダー波は、直進性が強いため、発射角度が浅いほど、探知しやすくなります。

●自動速度取締り機

オービスIII

速度の測定と証拠写真の撮影を自動的に行います。



●移動式

測定装置をパトカーに搭載して、移動しながら測定を行います。

Kバンドについて

Kバンドは、米国ですでに使用されている取締りレーダー波の周波数で、国内でも採用される可能性があります。本機は、現在国内で使用されているXバンドに加え、Kバンドも受信できるX•Kツインバンド対応です。

本機はレーダー方式のスピード測定装置に対応します。
※探知距離は、走行環境、測定条件などにより変わることがあります。

受信しにくい場合

電波の発射方法や周囲の環境、条件などにより、受信しにくいことがあります。

- 前に走行している車（とくに大型車）がある場合や、コーナー、坂道では、電波が遮断され、探知距離が短くなることがあります。スピードの出やすい下り坂では、ご注意ください。
- A/T車でAAC-Ⅳ/ASSをお使いの場合、走行中にアクセルペダルを戻すと、極端にエンジンの回転数が下がります。とくに下り坂では、スピードが出ていてもエンジンの回転数が下がり、AAC-Ⅳが働いて、警報音が鳴らないことがありますので、注意してください。
- 対象の車が近くに来るまで、電波を発射しない狙い撃ち的な取締りができるステルス型のスピード測定装置があります。

電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車輌通過計測機などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。「いつも鳴るから」と安心せずに注意してください。

故障かな？と思ったら

修理をご依頼になる前に、もう1度次のことをご確認ください。それでも異常や故障と思われるときは、お買い上げの販売店、または弊社営業所・サービス部(添付の一覧表をご参照願います)にご相談ください。つづく

症　状	チェック項目
電源が入らない	•シガープラグが外れていませんか。 •シガープラグの電源スイッチが押されていますか。 •シガーライターソケットの内部が汚れて、接触不良を起こしていませんか。シガープラグを2、3回左右にひねりながら差し込み直してください。 •シガープラグ内部のヒューズが切れていませんか。切れていた場合は、新しいヒューズと交換してください。
エンジンを止めて、イグニッションキーを抜いても、電源が切れない	•シガーライターソケットの電源が、エンジンの始動/停止と連動して入/切しない車があります。このような車では、エンジンを止めても、シガーライターソケットに電源が供給され続けますので、シガープラグの電源スイッチで電源を切ってください。
反応(警報)しない	•電源が入っていましたか。AAC-Ⅳ/ASSランプの点灯を確認してください。 •警報機能が正しく働きますか。テスト＆ミュートボタンを押して確認してください。 •AAC-Ⅳ/ASSランプが緑色で点灯していましたか。赤色で点灯していた場合は、取締りレーダー波を受信しても警報音を出しません。AAC-Ⅳ/ASSを適切なエンジン回転数に設定し直してください。 •取締りレーダー波が発射されていましたか。計測する瞬間だけ電波を発射するステルス型など、取締り準備中あるいは終了後などで、スピード測定装置から取締りレーダー波が発射されていないことがあります。(とくにオービスⅢではよくあります) •取締りが「レーダー方式」で行われていましたか。
警報の途中で警報音が小さくなったり、ランプ類が暗くなる	•警報が約30秒以上続くと、警報音が小さくなり、ランプ類が暗くなります。
取締りもしていないのに、警報機能が働く	•取締りレーダー波と同じ電波がほかでも使用されています。それらの電波を受信すると、警報機能が働くことがありますが、故障ではありませんのでご了承ください。 ＜取締りレーダー波と同じ電波を使用している主な機器＞ •電波式の自動ドア、防犯センサー •信号機の近くに設置されている車輌通過計測機 •NTTのマイクロウエーブ通信回線の一部 •気象用レーダー、航空レーダーの一部 •他のレーダー探知機の一部 •まれに他の無線機の影響を受けることがあります。その場合は取り付け場所を変えてみてください。
AAC-Ⅳ/ASSが正常に働かない	•A/T車でお使いの場合、アイドリング状態で、シフトポジションがドライブ(D)のときは正常に動作(AAC-Ⅳ/ASSランプが赤色に点灯)するが、ニュートラル(N)にするとAAC-Ⅳ/ASSランプが緑色に点灯してしまう車種がまれにあります。このようなときは、エンジンの回転数を少し高めに設定し直してみてください。
取締り現場なのに350.1MHzを受信しない	•350.1ボタンを設定していましたか。 •取締り現場での連絡が無線方式で行われていましたか。連絡には350.1MHzの電波を使った無線方式の他に、有線方式の場合もあります。 •連絡のための無線交信は、必要なときに短時間しか行いません。そのため、交信内容を完全に聞き取ることは難しくなります。350.1アラームが鳴ったときは注意してください。
カーナビゲーションの影響を排除できない	•自動ドアなどの常に電波の出ている場所でエンジンを始動した場合、GPSを排除できないことがあります。このようなときは、電波の出ていない場所へ移動して、もう1度本機の電源スイッチを入れ直してください。

故障かな？と思ったら

症　状	チェック項目
Nシステムを検知できない	•Nシステムスイッチは ON になっていましたか。 •Nシステムセンサーがサンバイザーやフロントガラスのスモークなどで、感知しにくくなっていませんか。取り付け場所を変更してみてください。 •Nシステムは稼動していましたか。稼動していない場合は、検知できません。 •一部の車種に採用されている断熱ガラスにより、検知しにくい場合があります。

アフターサービスについて

1. ***保証書（別に添付してあります）***
   保証書は、必ず「販売店•お買い上げ年月日」をご確認のうえ、保証内容をよくお読みになって、大切に保管してください。
2. ***保証期間***
   お買い上げの日から1年間です。
3. ***対象部分***
   機器本体（消耗部品を除く）
4. ***修理をご依頼されるとき***
   「故障かな？と思ったら」で確認しても、なお異常があると思われるときは、使用車名（車種）、機種名（品番）、氏名、住所、電話番号、購入年月日、保証書の有無と故障状況をご連絡ください。
   ●保証期間中のとき
   保証書裏面の「故障内容記入欄」にご記入いただき、お買い上げの販売店まで保証書とともに、機器本体とシガープラグをご持参ください。保証書の内容にしたがって修理いたします。
   ●保証期間が過ぎているとき
   まず、お買い上げの販売店にご相談ください。
   修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理いたします。
5. ***アフターサービス等についてご不明の点は***
   お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部（添付の一覧表をご参照願います）にお問い合わせください。

仕様

電源電圧	：	DC12V/24V （シガープラグ入力電圧）
消費電流	：	待機時130mA以下 最大時250mA以下
受信方式	：	スイープオシレーター式ダブルスーパーヘテロダイン方式
受信周波数	：	Xバンド、Kバンド
動作温度範囲	：	−20℃〜+85℃ （350.1MHz受信部−10℃〜+60℃）
本体外形寸法	：	74（W）×21（H）×100（D）mm （突起部を除く）
本体重量	：	121g

※本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますがご了承ください。

RX-100NR
INTEGRATED SAFETY DETECTOR

ユピテル工業株式会社
〒108-0023　東京都港区芝浦4-12-33

6SS0510-A